

2012年4月17日

博報堂の「新・母子健康手帳」、採用自治体数が大幅拡大 2012年度は全国の計92自治体で使用されます

株式会社博報堂の専門組織 hakuhodo i+d が運営する「日本の母子手帳を変えようプロジェクト」は、同社で開発した「新・母子健康手帳(通称:親子健康手帳)」を、昨年度より自治体向けに提供しています。提供2年目となる2012年度は採用自治体数が大幅に拡大し、この4月より、全国計92自治体^{*}で利用が開始されています。 ^{*}2012年4月17日時点

(参考:2011年4月=【計2自治体】、同年10月=【計34自治体】、2012年4月=【計92自治体】)

「新・母子健康手帳」の特徴と改訂点

全国の父母や医療関係者へのインタビュー、日本・世界の先進的な母子手帳のケーススタディなどを通じて得られた発見をもとに開発したもので、今の時代に必要だと思われる「健康カルテ」機能、「癒し励まし」機能、「男女共育」機能や、記入しやすく親しみを持てるデザインなどが特徴です。

2012年度版は、2011年度使用自治体および一般生活者からのフィードバック、厚労省奨励様式の変更を受け、便色カードの追加、表紙や記入欄の改良(P.3参照)、身長体重曲線の改訂などを行いました。



左) 2012年度版「新・母子健康手帳」
右) 福島県楢葉町の「自治体オリジナル表紙」

「自治体オリジナル表紙」の制作も開始

今年度からの新たな取り組みとして、「自治体オリジナル表紙」版の制作を開始しました。第一弾として、福島県楢葉町からの依頼を受け、同町オリジナルの表紙を制作。現在、震災の影響で町民の大半が避難生活を送っている時期だからこそ、生まれてくるお子さんとご両親が自分たちの町のことを忘れずにいられるよう、楢葉町の動植物(鮭、白鳥、山百合など)や震災復興に向けた詩などを描いた表紙をデザインしました。

今後も hakuhodo i+d「日本の母子手帳を変えよう」プロジェクトは、母子手帳の力で日本の子育ての課題を解決していくことを目指し、さまざまな関係者と連携してプロジェクトを推進してまいります。

「hakuhodo i+d」とは

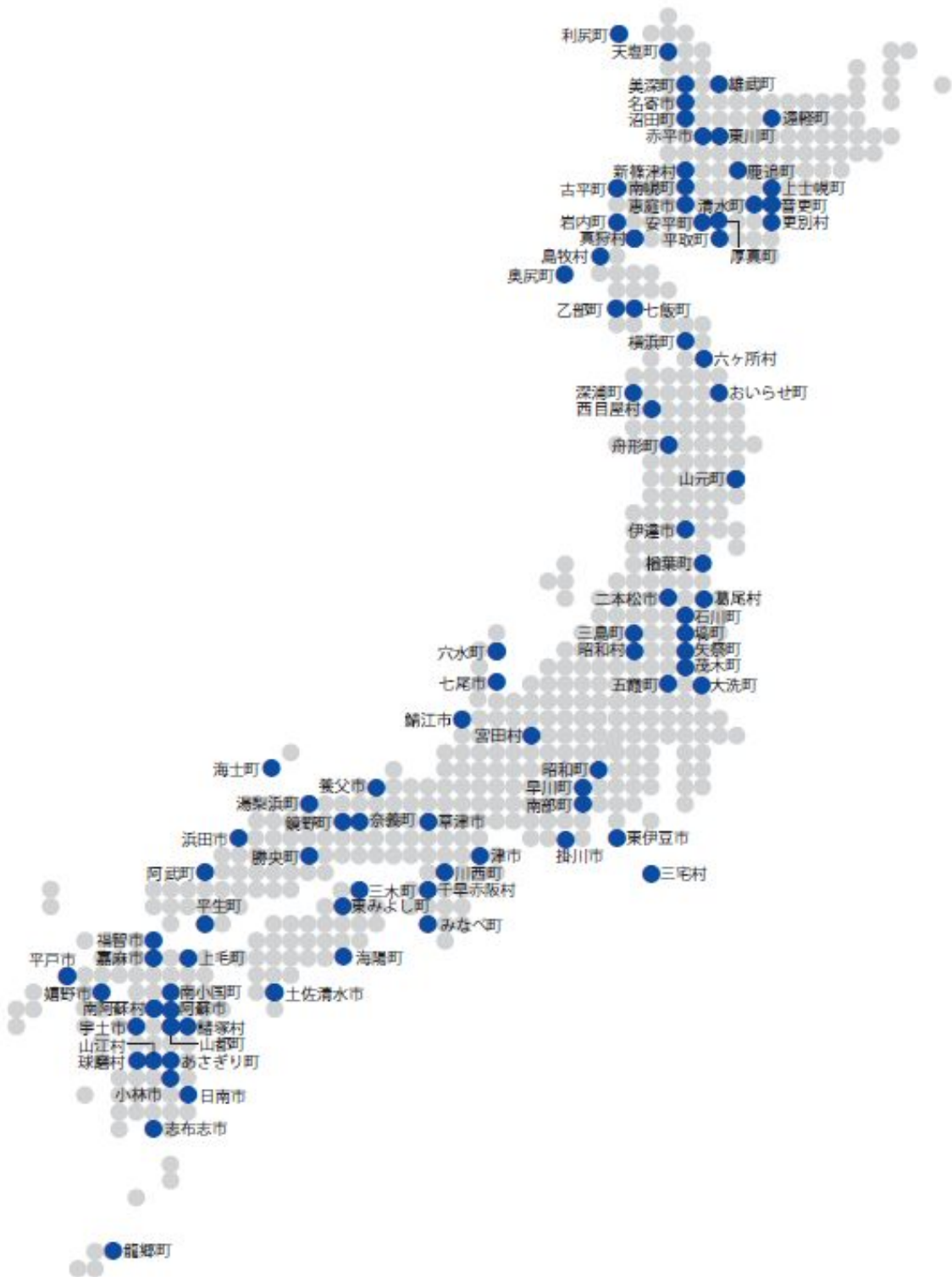
「社会の課題に、デザインの力を。」を合言葉に2012年4月に設立された、(株)博報堂内のソーシャルデザイン専門組織です。行政・市民・大学・企業が参加し、地域・日本・世界が抱える社会課題に対して、デザインの持つ美と共感の力で解決に挑みます。東日本大震災支援の「できますゼッケン」など、多様なアプローチで地域が抱える課題解決プロジェクトを実行中です。
^{*}「日本の母子手帳を変えよう」プロジェクトは、2012年4月より、「hakuhodo i+d」が運営・推進してまいります。

【新母子手帳に関するお問い合わせ】 hakuhodo i+d 算 (03-6441-7752)

【報道関係者様からのお問い合わせ】 博報堂広報室 山野・森(03-6441-6161)

【プロジェクトの詳細】 <http://mamasnote.jp>

<参考資料 1> 新・母子健康手帳 2012 年度版使用 92 自治体一覧



<参考資料 2> 新・母子健康手帳 7つの特徴

① 予防接種や記録のページが充実しました。

予防接種の情報と記入欄が不足しているという声に応じて、ページ数を増やしました。また、子どもの成長・健康記録を書き込めるページも充実です。

② 必須情報を読みやすく工夫しました。

妊娠・出産・育児に必要な時期に必要な情報を読んでもらえるように、編集を工夫しました。キーワードと平易な文章、可愛いイラストで必要な情報が一目瞭然です。

③ お母さんを癒し楽しませます。

「お祝いの寄せ書きページ」「記念日カレンダー」「育児の名言」など、育児に大忙しなお母さんを元気づける内容が盛りだくさんです。

④ パパの育児参加を促します。

親子健康手帳という愛称の通り、お父さんの協力を促す「パパの心得」ページも充実です。

⑤ 子どもが大きくなってからも役立ちます。

小学生以降も成長記録を継続でき、必要な知識が記載された長く使える手帳です。

⑥ モニター自治体の声に応えました。

2012年度版は新たに、昨年使用いただいた34自治体の声に応え、表紙の色や素材、記入欄の大きさ、綴じ方（開きやすい糸綴じ）の変更、頻繁に使用するページのインデックスなど、大幅に改良し、現場で使いやすい手帳へとさらに進化しました。

⑦ 厚生労働省令変更に対応しました。

便カラーカード、妊娠時の記録、発育曲線など、全ての変更に対応しています。

